西浮通信

令和５年９月１日
ＮＯ．３９４
東京都北区立西浮間小学校
校長　小島　みつる

育てたように子は育つ

校長　小島　みつる

４２日間の長い休みが終わりました。学校には、楽しく充実した長期休日を過ごし、一回り大きく成長した元気な子供たちが戻ってきました。さて、この「一回りの成長」ですが、一月半ぶりに会う成長期の子供たちは、確実に身体つきが「一回り」大きくなっています。では、心の方はどうでしょうか？

今年度も本校では「気持ちの良い挨拶のできる子」を目指して４月から重点的に取り組んできました。しかし、夏休み明け、元気に挨拶できる子とそうでない子の差が大きくなっています。４２日間、家族同士で「おはよう」「いってきます」「ただいま」「いただきます」「おやすみなさい」などの挨拶、また「ありがとう」「ごめんなさい」を日常的に交わし合って過ごした子は、夏休み明けも元気に挨拶ができているのでしょう。けれど、家族同士で挨拶をしないでいたら・・・。

「挨拶」の「挨」は近づき迫ること、「拶」はすりよること。つまり、挨拶とは「あなたの心に近づきたい」という気持ちの表れなのです。だから、挨拶をされると気持ちが良いのでしょう。挨拶を身に付けた子は、どんな場所でも将来困ることはありません。気持ちの良い挨拶からよりよい人間関係が作れるのです。

「育てたように子は育つ」と言われます。先日、近くのスーパーマーケットで見かけた二組の親子の様子を紹介します。

① の親子：スーパーのレジ付近で一人の子が走り回っていました。かごを片付けるスーパーの従業員の方とぶつかりそうになり、その子に「走り回らないでね。あぶないよ。」と注意しました。それを見ていた父親は、子どもの頭を小突き「だっせぇ～っ。怒られてやんの。」と馬鹿にしたようににやにや笑いながらその子のほっぺたをつねりました。

② の親子：スーパーのレジ付近でふざけていた子をレジの方が「危ないから気をつけて」と注意しました。その場にいた母親は「（レジの方に）あ、ありがとうございます。すみません。（子どもに）ふざけていたらだめよ。おばさん（レジの方）に、『ごめんなさい、ありがとう』をしなさい。」と子どもに話していました。

さて、この二組の親子・・・この子どもたちはどんな小学生～大人に育っていくのでしょうか？子供は「育てたように育つ」のです。

夏休みにドロシー･ロー･ノルトさんの「１０代の子どもが育つ魔法の言葉」（PHP 研究所）を読み直しました。私自身、そして皆様にも参考になれば思い、「目次」の一部を転記します。

- プレッシャーをかけすぎると、子どもは疲れてしまう
- 厳しいルールを押しつければ、子どもはルールを破る方法を探す・・・価値観を伝えていく
- 好き勝手させると、子どもは人の気持ちに鈍感になる
- 失敗を繰り返すと、子どもは自信を失う・・・希望は子どもを救う
- 否定されると子どもは苦しむ・・・無視ほど残酷なことはない
- ひとりの人間として大切にされれば、子どもは思いやりのある人間になる
- 親を信頼できる子どもは、本当のことを話してくれる
- 責任感を育てれば、子どもは自分で考えて行動できるようになる
- 支えてあげれば、子どもは自分に自信をもつようになる・・・子どもの挑戦を応援する

「育てたように育つ」子どもたちの健全な成長に向けて、学校のできること、家庭のできること、タッグを組んで頑張って参りましょう。